

令和5年度  
小学校教科担任制推進事業  
府中中央小学校の取組

## 学校教育目標 自ら伸びる

### 教科担任制により 見込まれる効果

- ①多面的な児童理解
- ②細やかな生徒指導
- ③学力の向上
- ④保護者の理解

### 数値目標

- ①②アンケート結果の向上  
※学校独自のものも含む
- ③12月標準学力調査  
全国平均+3ポイント
- ④発信の取組  
学期に2回以上

## 今年度 力を入れて取り組みたいこと

- ①多面的な児童理解
- ②細やかな生徒指導
- ③学力の向上
- ④保護者の理解

- ①②高学年ミーティング  
生徒指導主事や特別支援  
COも共に取り組む。  
学校独自のアンケート
- ③各学年での教材研究  
※教師が注力するところ
- ④学期に2回以上  
※学校だより・HP等

### ③学力の向上

## 教師が注力すべき教材研究の深化 「自ら伸びる意思」をもって

今年度の学校評価表～

### 一部教科担任制導入により教材研究の時間を確保する。

- 全体研修・授業研究により、教師の「自ら伸びる意思」の向上を図る。
- 研修後、アンケートをとり、PDCAサイクルを回す。

## 6月 5年生児童の感想

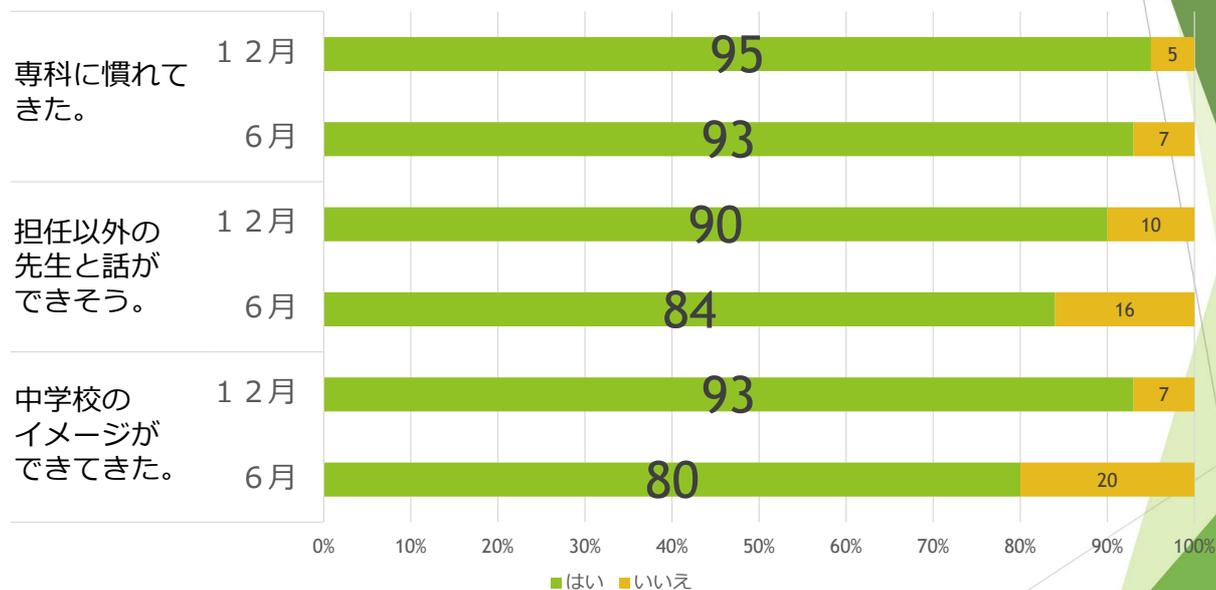
良いところは

- ・その教科がよく分かる。楽しい。
- ・いろいろな先生と出会える。話ができる。
- ・中学校の準備ができる。

困ることは

- ・先生に慣れるまでが緊張する。どんな人か分からない。
- ・宿題が複雑になる。
- ・担任の先生との時間が減る。
- ・分からないことがあっても、教えてもらいにくい。

## 学校独自のアンケート 5年生の変容

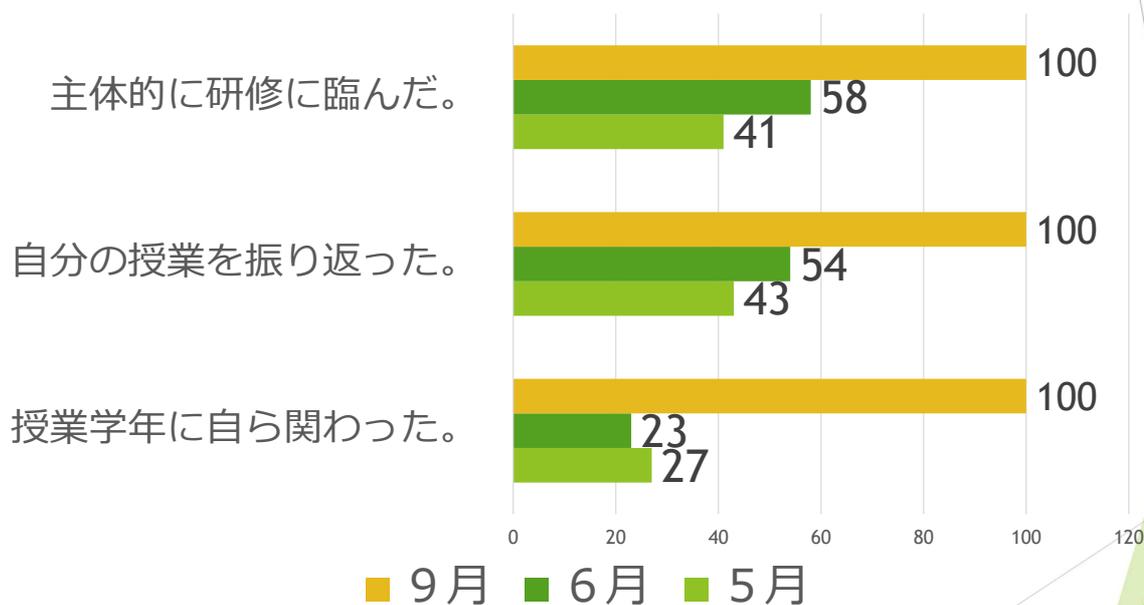


### 12月 5年生児童は・・・

- ・ 教科の内容がよく分かるようになった。
- ・ 今までより多くの先生を知ることができた。
- ・ 先生によってやり方が違ってても対応できるようになった。
- ・ 中学校のイメージができてきた。



## 教師アンケート 「自ら伸びる意思」を高める



## 教師の意欲向上のために

- ・ 夏季休業中、教材研究に全員が関わる時間を作った。
- ・ 授業後の分科会のグループ作りを工夫した。  
例 学年グループ、担当教科グループ、  
経験年齢別グループ  
ラウンドスタディによる役割分担など
- ・ 研究授業を参観する時、何を見取るか、何について語れるようにするのかを事前に周知した。
- ・ アンケートの意義について語った。